

アラウンド GOGO 55

55かと 白髪染めして 笑いとる

木全和巳



5年前、震災の年にガンになった。抗がん剤の影響で白慢の(?)黒髪はごっそりと抜けた。帽子のコレクターになった。抗がん剤治療を終え、ぼちぼちと髪が生えてきた。けれども、真っ白。もう若くないに、若くないから、見てくれの若さ!を気にして、髪を染めた。いのちを拾うと、いつの間にか生きていることのありがたさは消える。

先週の火曜日、労働組合員室にコーヒーを飲みに行く。たむろしていた同世代の職員たちから「先生、髪染めている?」と、ふられる。日曜日に床屋に行き、真っ黒に染めてきたばかり。なんて答えようか? 「わかる?」「真っ黒だもの」「そうだね」「自然じゃない」「茶髪もいいか」「真っ白にして緑のラインもいいね」。こんな話で盛り上がる。ある職員が「生えてきただけいいね」と、自分の髪が抜けてきて頭をつるりと手でなで

る。どつと笑いが。こんなことで笑える人たちと、少し疲れたら集える場がある職場は、今の日本の中では、恵まれているのだろう。パートだけれども、専従の職員さんがある。いつも温かいコーヒーがポットに入っている。テーブルの上には、お菓子も。昼休みには、お弁当をもつて集まる常連さんたち。縁あって日本福祉大学に来て15年。55歳になった。残り10年。じっくり落ち着いた丁

寧な研究をしようと思うが、思うに任せないまま。あいかわらず頼まれた仕事をこなしていくだけの毎日。頼まれた仕事には意味があるから、共に活動をしつつ、自分なりに言葉に紡ぐ。これでいいのかなあと、ぼやきつつ。

講義をして、ゼミをして、学習会をして、相談支援の活動を、事例検討会に呼ばれ、時間が空いていけば、デモに行き、時々、時間をひねり出し、映画を観に行くぐらいい。こんな日常が続いていく。ちいつとも「ロック」じゃない生活。

食うに困らず、残したいものを、伝えたいこと、こんなことを迷い悩みながら考えられること自体、ぜいたくかもしれないが。

(愛知支部 大学職員)